ハイテム リクルート NEWS　発行・編集：早瀬　公哉

第７号　２０２３年2月23日

技術グループ第２チーム　松田 悟嗣
琉球大学　機械システム工学科
２０２０年卒

技術グループ第２チームの仕事

技術グループ第２チームに所属している松田です。
技術グループ第 2 チームは、プロジェクトごとにお客様に応じた形で機械設計・開発を行う部門になります。

今回は、最近耳にされることも多くなった「平飼い」の設備について紹介します。
皆さんは平飼いの設備といえばどのようなものを想像されますか？屋外などで放し飼いにされている様子でしょうか？
私たちの納めている設備は想像とは少し違うかもしれませんが、卵の生産設備と動物福祉(アニマルウェルフェア)に配慮した形の両方を兼ね備えたものになります。
動物福祉とは、一般的に、人間が動物に対して与える痛みやストレスといった苦痛を最小限に抑えるなどの配慮により、動物の待遇を改善しようとする考えのことを言います。(ウィキペディアより)

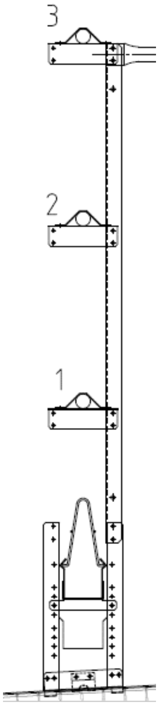
平飼い設備は主にネスト(巣箱)・パーチ(止り木)・遊び場を兼ね備えていて、朝はネストで卵を産み、昼間は広い敷地で走り回って夜はパーチに掴まって眠るという鶏本来の習性を大事にしながら飼えるようになっています。

私は主にパーチの部分と、給餌の部品の設計を担当しています。
パーチも給餌の部品も、お客様ごとに希望する配置が違って、毎回ご要望に応じた形での検討が必要になります。
実例を見ながらご説明していきます。

給餌の餌箱の上にパーチが一本ついています。これが基本形になります。

こちらは先ほどよりも餌箱が多く配置されています。限られたスペースで上手に配置する必要があります。
奥に見える赤い暖簾の場所がネストになります。

こちらは餌箱の位置が高く、パーチに掴まらないと餌が食べられない事例です。
パーチに乗るためにジャンプする必要があり、鶏の足腰が鍛えられます。



パーチが縦に３段設置してあります。より高い位置へ行きたがる鶏の習性を考えての配置です。

ネスト前の様子。ちょうど給餌の時間で餌を食べていますね。餌を食べていない鶏は高いところにいて様子をうかがっています。

今後このような平飼い設備は、鶏がより自由な環境で産んだ卵を食べたいという消費者の要望に応えて鶏卵生産の１割前後になると予想されています(平飼いは１羽当りの施設費がハイテムの標準的なケージ方式に比べて倍前後になり卵の価格は５割以上高くなります)。
平飼い設備はまだまだ発展途上な設備です。今後、より鶏と生産者のためになるような良い設備を一緒に作っていきませんか？
お待ちしています。